

<11月のギャラリー展示>

『ヒサ子さんのあみぐるみ』

11月の展示は、大正13年生まれのヒサ子さんのあみぐるみです。ヒサ子さんは、マンガ家の娘さんが描いた絵を見れば、どんなものも編めるあみぐるみの達人。娘さんは、高齢になっても生き生きした母でいて欲しいから「なんじゃい、このへんなぬいぐるみは～」と、ぼやかかれてもお題を出し続け「ほな、こうしようか」と、絵のアイデアを膨らませて編み上げるヒサ子さん。出来上がったあみぐるみは、ご近所さんや郵便局、犬の散歩仲間に、娘さんが知らぬ間にプレゼントされていたそうです。この病院にも開院から7年間、虹色のベアや海色のベア、干支のベア、雪だるまが鏡餅に変身するベアなど、わくわくするあみぐるみを贈り続けてくださいました。「90代になり身体が辛いことが多くなっても、あみぐるみを受け取った患者さんから感謝のお手紙を頂けて、母はまた、手を動かしてくれていました。」と、娘さん。手にするとふわっと柔らかなヒサ子さんのあみぐるみの物語は、この病院で今もずっと患者さんや医療者を温めてくれています。

受け取った人に虹が届くようにと虹色のベアを、干支にちなんで申年には、サル顔のベアも。

